

湘南高校、国体全国優勝・選手権出場6回の戦績の歴史と その裏側に迫る 「湘南蹴球百年誌」

織田作之助賞作家・植松二郎（サッカー部OB）が最終執筆

神奈川県立湘南高等学校は、1921（大正10）年、旧制湘南中学として開校しました。サッカー部は学校創立と同時に創部されました。2021（令和3）年には、創部百周年を迎えます。この間に、OB、OGの寄稿を元にした文集を4回発行、1982（昭和57）年からは毎年OB会報を発行しています。こうした資料を基に、織田作之助賞受賞作家で、サッカー部OBの植松二郎が最終執筆を担当、一般の読者が読んで面白い百年誌を製作します。

■湘南サッカー部の歴史

高校選手権の前身にあたる大会は1917（大正6）年に開始されました。旧制湘南中学蹴球部は後発として活動を始め、東京高師出身のコーチ（日本代表FW）が初期に指導。先行の各校を手本に追いつけ追い越せと努力を重ねます。1回生の天野武一（最高裁判事）、2回生の岩淵二郎（湘南高校教諭）の二人のOBを中心にチームを強化、1931（昭和5）年に神奈川県で優勝。1937（昭和12）年に中学選手権全国大会に初出場。戦前は計3回出場し、1939年（昭和14）年には全国ベスト4に。1940（昭和15）年には関東大会で優勝と輝かしい戦績を残しました。戦後、1946年（昭和21）年には国体で全国優勝、1948（昭和23）年には国体で全国準優勝をとげました。1962年、1966年に選手権全国大会に出場、1965（昭和40）年に関東大会で3度目の優勝を記録しました。その後1989（昭和64）年には選手権全国大会に久々の出場、ベスト16に勝ち上がりました。

昭和のおよそ50年間にわたって、神奈川県代表を勝ち取ってきたチーム強化の歴史をたどり、その裏側にある興味深いエピソードなどを紹介します。

平成に入り、Jリーグの発足、ワールドカップ開催などにより、日本サッカーのレベルは大きく向上しました。高校選手権の神奈川県二次予選の常連校ではありますが、県代表には届かない時期が続きました。一方、文武両道の精神は引き継がれ、2004年からはスペイン遠征を開始、国際的な視野を高校年代から養成する活動を継続しています。

■植松二郎

1947年生まれ、1965年湘南高校在学中にサッカー関東大会で優勝、ミッドフィルダーで出場した。早稲田大学政治経済学部卒業後、(株)日本デザインセンターに入社。在職中に東京コピーライターズクラブ新人賞。独立後、小説家の道を歩む。1992年老人と少年の勇気の物語『ペンフレンド』で第40回毎日児童小説最優秀賞、1996年世渡りの下手な男の悲運を柔らかい文体で描いた『春陽のベリーロール』で第12回織田作之助賞を受賞。情の機微をつく作風にファンが多い。

■発行予定 発行元：湘南サッカー部OB会 2021年12月 A4変型判、334頁 予定
価格：無料 OB会員、ほかに配布予定
2022年2月(予定) 湘南サッカー部HPで 公開の予定

■湘南サッカー部HP <http://www.shonan-soccer.com/>